

令和 7 年度

湖南省教育委員会事業評価

湖南省教育委員会

評価報告書

令和 7 年度

湖南省教育委員会評価委員会

令和 7 年度 湖南省教育委員会評価委員会の実施について

本委員会では、湖南省教育委員会事業評価について、今日までの評価項目全体を評価するのではなく、毎年度実施する所管課の最終評価を踏まえ、年度当初に所管課が重点的に取り組む事項として掲げた重要項目に対し、委員会として評価を行っている。

令和 7 年度は、別紙に掲げる主要 6 事業を対象とし、所管課の作成した教育事業評価シートにより事業の実施内容、成果・課題等についてヒアリングを行い、各委員からの意見をもとに、総評および各項目に対する講評を行った。

今後は、本報告書に記載してある評価をもとに令和 8 年度以降の取組の改善を進められ、さらなる本市の教育の向上を願うものである。

令和 8 年 3 月 31 日

湖南省教育委員会評価委員会

外部評価実施内容

- ① 日 時 令和 7 年 6 月 30 日 (月) 午後 2 時 30 分から
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室
- ② 日 時 令和 8 年 2 月 9 日 (月) 午後 2 時 30 分から
場 所 湖南省役所西庁舎 3 階大会議室

評価体制

外部評価委員 (評価委員会委員)

若 槻 健 (委員長)
中 村 善 司 (副委員長)
下 村 照 子
青 木 美智子

評価対象事業数

6 事業 (令和 7 年度最終評価シート 50 項目の内)

対象事業

- 資料No.15 (教育総務課)
 - ・ 学校施設の環境整備
- 資料No.19 (学校教育課)
 - ・ 多文化共生教育の推進
- 資料No.20 (学校教育課)
 - ・ 道德教育の推進
- 資料No.37 (学校教育課)
 - ・ 教職員の働き方改革の推進
- 資料No.38 (学校教育課)
 - ・ 教職員の資質と実践的指導力の向上
- 資料No.46 (図書館・教育支援課)
 - ・ 公立図書館の充実

【総 評（全体）】

第3期湖南市教育振興プランの計画期間が令和7年度にスタートし、その初年度の評価を行った。令和7年度の事業所管課の最終評価においては、おおむね目標どおりの取組が実施されたものと捉えている。今後も目標数値や評価指標についてはこれまでの経過を踏まえつつ、実態に即した見直しを行っていく必要があると認識する。

今回の評価は各委員からも述べられたとおり、多くの項目で計画が達成できしており、良い方向で進んでいると言え、目標の数値を達成しただけでなく、その達成に伴う実質的な手応えも各課で共有されたものと認識している。今後もこの状態を継続しつつ、さらに効果を高め、改善の余地を模索しながら取り組みを進めていくことが重要である。

また、各委員からも指摘があったように、数値に表れない部分も重視すべきであり、数値を達成したことをもって良しとせず、見えにくい課題や成果を掘り上げる努力が求められる。現状に満足するのではなく、更なる向上を目指し継続していくことが期待される。

令和8年度以降も、第3期湖南市教育振興プランの趣旨を踏まえ、「学校・家庭・地域が連携し、それぞれが責任を持つ教育の創造～子どもの育つ力を信じ、夢と志を育て未来を拓く『生きる力』の育成～」および「楽しくて力のつく湖南市教育」の実現に向けて、引き続き事業推進に努めることを期待し、総評とする。

【講評（事業別）】

○資料No.15（教育総務課）

・学校施設の環境整備

【コメント】

すべての小中学校に防犯カメラを整備できたこと、また「防犯カメラ作動中」の看板も設置していただいたことは、大変結構なことと受け止めます。

費用をかけて、安全第一で子どもたちを守るための取組を進めておられることは本当にありがたく、今後もそれぞれの学校施設の状況に応じた防犯の在り方を検討いただく必要があると考えます。また、教職員からモニターが見えるようになっているとのことですので、日々の安全確認に生かされることを期待します。

- 資料No.19（学校教育課）
・多文化共生教育の推進

【コメント】

多国籍化が進む中で、学校現場への影響も大きく、通訳者の確保が難しいことが課題になっていると感じました。令和 7 年度はベトナム語通訳の方を採用できたことで学校が大変助かったとのことであり、必要な支援につながったことは心強いものでした。

教育支援課の窓口にも、ミャンマーやスリランカなど、これまであまり見られなかった国籍の方が来られることがあり、翻訳機器を用いて対応されているとのことですが、日々ご苦勞も多いのではないかと推察されます。

学力や言語の面では個人差がかなりあり、画一的な対応では難しい部分が多いと思われますが、一人一人の実態に応じた支援を行いながら、子どもたちが安心して学べる環境を整えていくことが重要であると考えます。

○資料№20（学校教育課）

・道徳教育の推進

【コメント】

アンケートに答える際、日本人はあまり肯定的に答えない傾向があるということを読んだことがあります。小中学校ともに目標数値を上回っていることは、大変良い結果であると受け止めました。先生方の日々の取組が表れているものと思いますが、他方で、自尊感情が結局のところどこで育まれているのかという点は、このアンケートだけでは見えにくいことが一番の問題ではないかと感じました。自己肯定感、自分ができた体験や友達と協力してできた活動など、さまざまな機会を積み重ねながら高まっていくものだと実感します。まずは相手の意見を聞くということが第一であり、学校現場でも、日々先生方がさまざまな場面で子どもたちを認めていこうという気持ちで接し、工夫されているのだと思います。

また道徳の時間が、自分の本音が出る、本音で語れる時間になることが望ましく、そのためには道徳の時間だけではなく、普段の学級づくりが大切であり、「こうしなければならない」「こうしたほうがいい」「こう言っておけば収まるだろう」ではなく、ありのままの自分でいられるような学級・学校であることが大事だと考えます。

○資料No.37（学校教育課）

・教職員の働き方改革の推進

【コメント】

予算の範囲内で支援員の配置ができ、職員室内の印刷業務や書類整理、備品・物品の後かたづけなど、さまざまな業務を支援いただけたことは、大変ありがたいことと受け止めます。一方で、根本的な働き方改革としては、1クラスの人数を30人までにするなど、少人数化を進めることが一番大切ではないかと考えます。

また、全国的にも湖南省においても男性育休の取得が普及し、高い取得率となっている中で、その補充をどう確保していくかは難しい課題であると感じました。

○資料№.38（学校教育課）

- ・教職員の資質と実践的指導力の向上

【コメント】

市内の校園で多くの教職員が研修を受けられていることは非常に良いことであり、たいへんうれしく思います。今後は、人権教育の分野において、LGBTQなども含め、当事者の声を直接聴くような研修をぜひ増やしていただきたいと思っています。

また、保育園や幼稚園においても、どのような研修を希望しているのかを把握し、学校だけでなく校園全体としてつながりを持ちながら、継続的に学びを深めていけるようにしていただきたいと考えます。

○資料No.46（図書館・教育支援課）

・ 公立図書館の充実

【コメント】

図書館から発信するさまざまなイベントがあり、いろいろな人が集まる場になればよいと感じます。今回の指標は来館者数となっているが、今後は、来館の多寡だけにとどまらず、実施したい事業を充実させる方向で進んでいくとよいと考えます。

図書館が地域の学びや交流の拠点として、より多くの人に親しまれる場となることを期待します。

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政策	1	確かな学力を育む
施策	1	主体的・対話的で深い学びの充実

2. 具体施策の概要

具体施策	「楽しくて力のつく湖南省教育」の推進	
内容	「楽しくて力のつく湖南省教育」の実現のために、学習指導要領や全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえ、毎年「湖南省学ば力向上策」および「我が校の学ば力向上策」を作成し、授業改善や集団づくりに取り組みます。 また、中学校区ごとに「めざす子どもの姿」を共有し、中学校区連携を重視した学校教育を推進します。課題解決力・コミュニケーション力といった資質・能力の育成に努めます。	

3. 数値目標

内容(指標)		「授業の湖南省スタイル」に関する教職員アンケートのなかで、「授業で子どもたちが交流する時間を設定できている」の項目に肯定的な回答をした教職員の割合		
令和5年度	実績	84.6%		
令和6年度	実績	85.9%		
令和7年度	数値目標	90.0%	実績	88.0%
令和11年度	数値目標	90.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	教職員アンケート「授業で子どもたちが交流する時間を設定できている」の項目において、小中学校全体でみると、85.8%、小学校のみでみると83.7%、中学校のみでみると89.2%の結果が出ています。(数値は7月実施アンケートの結果)今後も引き続き、めざす子どもの姿に迫る学びのあり方を考え、各校で工夫した取組を継続します。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	教職員アンケート「授業で子どもたちが交流する時間を設定できている」の項目において、小中学校全体でみると、88.0%、小学校のみでみると85.6%、中学校のみでみると91.8%の結果が出ています。(数値は12月実施アンケートの結果)今年度、市内の小中学校では、湖南省スタイルを意識した授業の流れ、1人1台端末の効果的な活用など、学び方に工夫のある授業が展開されました。今後も引き続き、「対話」を軸として学びを深めることを大切に、めざす子どもの姿に迫る学びのあり方を考え、各校で工夫した取組を継続します。また、経過や児童生徒個人の様子を丁寧に見守りながら、中学校区それぞれの課題を明確にして改善するように、2月12日、湖南省子どもの学びづくり委員会にて指導しました。来年度も、中学校区ごとの小中学校の連携をより一層強め、めざす子どもの姿に近づくための具体的な取組を共通理解・共通実践していきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	1	確かな学力を育む
施 策	2	基礎学力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	「児童生徒が自覚して学ぶ」姿の育成
内容	各校において共通実践事項を設定し、実践することで、一人ひとりに応じた学びの機会を保障します。コミュニケーション力・論理的思考力・学びに向かう力・人間性などの「非認知能力」育成を重視し、学び手としての自覚を育てます。

3. 数値目標

内容(指標)	「授業の湖南省スタイル」に関する教職員アンケートのなかで、「授業で子どもたちが学びを自覚したり、次時への学習意欲をもてたりできるように『ふりかえり』を書く時間を設定している」の項目に肯定的な回答をした教職員の割合		
令和5年度	実績	75.1%	
令和6年度	実績	80.0%	
令和7年度	数値目標	80.0%	実績 75.0%
令和11年度	数値目標	80.0%	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	教職員アンケート「授業で子どもたちが学びを自覚したり、次時への学習意欲をもてたりできるように『ふりかえり』を書かしている」の項目において、小中学校全体でみると、77.5%、小学校のみでみると77.5%、中学校のみでみると77.5%の結果が出ています(数値は7月実施アンケートの結果)。 今回、4月のアンケート結果から割合がやや減少している現状があります。今後は、授業づくりにおけるふりかえりの重要性をさらに周知し、子どもたちが自らの学びを自覚し、ふりかえりが書ける時間を確保できるようにしていきます。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	教職員アンケート「授業で子どもたちが学びを自覚したり、次時への学習意欲をもったりできるように『ふりかえり』を書く時間を設定している」の項目において、小中学校全体でみると、75.0%、小学校のみでみると78.6%、中学校のみでみると69.7%の結果が出ています。今年度は、教育委員会からの学校訪問において、湖南省スタイルの充実、さらなる深化の重要性について、指導助言を行いました。(数値は12月実施アンケートの結果)次年度は、子どもにとって「ふりかえり」の時間が学びの主体性を育み「学びの自覚」をするために重要であることを、校長会や学校訪問等で周知し、「ふりかえり」を書く時間を確保できるように働きかけていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	1	確かな学力を育む
施 策	2	基礎学力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	「子どもの学びプロジェクト」の推進
内容	「子どもの学びづくりプロジェクト」において「授業改善(授業の湖南省スタイルの定着)」、「読書活動」、「家庭学習の充実」を推進するとともに、結果として「子どもの夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」ための土台となる自尊感情の向上に取り組めます。中学校区連携を進めるなかで学びのつながりや共通実践など、効果的な指導方法の工夫改善に努めます。「ICT授業推進ワーキンググループ」は授業改善を推進するために、小中学校教職員が主体的にメンバーとなり授業提案を行い、子どもの学びづくり委員会のメンバーと共に授業改善の推進役を担います。 また、継続的な朝の読書活動などを通じて読書の習慣化に努めるとともに、学校図書館とその機能、および学校司書を活用した授業を積極的に推進します。

3. 数値目標

内容(指標)	学校図書館を活用した授業実践校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績	全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	市内全ての小中学校で学校図書館を活用した授業実践を行っています。学校司書が本を用意するだけでなく、ブックトーク等で授業に関わる授業実践が増えています。国語科の授業に限らず、様々な教科での授業実践も増えています。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	学校司書が本を用意する際に、授業者からの要望(授業でキーワードになる言葉に付箋をつけておく)などが加わり、ブックトークはもちろんながら、授業の質の向上にもつながっています。国語科以外での授業実践も増えてきました。今後は授業で深めたいポイントに合った選書ができるよう、授業者との連携をさらに密にしていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政策	1	確かな学力を育む
施策	2	基礎学力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	語彙の量と言語の質を高める取組
内容	「ことばの宝宝箱」や「湖南省の小さな詩人たち事業」の取組を積極的に活用し、語彙を増やし、言葉に対する豊かな感性を磨くよう努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	「ことばの宝宝箱」を活用した暗唱などの取組校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 中学校 1校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 中学校 1校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 中学校 2校	実績	全小学校 9校 中学校 1校
令和11年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	全小学校9校と中学校1校で、音読活動で利用されています。小学校では、地域ボランティアの方に成果を披露したり、担任や管理職が暗唱を聞き取ったりする取組を実施している学校もあります。中学校でのさらなる活用を促しています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	目標どおり、市内全小学校で音読活動で利用することができ、ことばに対する豊かな感性を磨く機会となりました。中学校の利用校数については、昨年度と同じですが、実践を共有し活用を広げていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政策	1	確かな学力を育む
施策	2	基礎学力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	語彙の量と言語の質を高める取組
内容	「ことばの宝宝箱」や「湖南省の小さな詩人たち事業」の取組を積極的に活用し、語彙を増やし、言葉に対する豊かな感性を磨くよう努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	「湖南省の小さな詩人たち事業」の作品作りの取組校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績	全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	小さな詩人たち事業は、10月末まで全小中学校で作品づくりに取り組みます。校内選考ののち、10月30日の国語主任会で二次選考を行い、11月18日には選者の先生に最終選考を行っていただきました。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	二次選考会と最終選考会を実施し、今年度の優秀作品を選びました。作品づくりを通して、新しいことばに出会い、楽しむことができました。また、友達と作品を交流することで、自分だけでは思いつかなかった新しい発想を得たという報告を受けています。 子どもたちが次年度の作品づくりの参考にしてくれることを期待しています。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

令和7年度 湖南省教育事業評価シート

所管課

学校教育課

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	1	確かな学力を育む
施 策	3	育ちと学びをつなぐ教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	園・小学校の連携
内容	子ども一人ひとりの健康や成長、発達の過程などを就学先の小学校との間で共有し、幼児期から就学期における子どもの育ちの連続性を確保することで、さらなる連携を図ります。 また、入学した児童が、幼児期の教育における遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、学びに向かうことが可能となるようにするためのスタートカリキュラムの充実を図ります。
具体施策	小・中学校の連携
内容	各中学校区で授業参観や連絡会などの開催、出前授業や合同授業などを通して、情報交換や交流を行い、子どもの連続した育ちと学びを支援できるよう、さらなる連携を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	園・小中学校における相互授業参観・授業研究の回数および参加した園の総数			
令和5年度	実績	17回 参加した園の総数 12園		
令和6年度	実績	17回 参加した園の総数 13園		
令和7年度	数値目標	17回 参加した園の総数 15園	実績	17回 参加した園の総数 15園
令和11年度	数値目標	17回 参加した園の総数 16園		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	「学力向上アドバイザー学校訪問兼生きぬく力の礎育み推進事業」において、1学期に全中学校区の小中学校で相互に参観し、共通実践の確認や意見交流の機会をもちました。2学期以降も各中学校区で1回、中学校区の校園の連携を目的とした授業研究会を行う予定です。9月にすでに1校区は実施済みです。 スタートカリキュラムの充実については、県から配布された就学前保護者対象の説明用リーフレットを小学校へも周知し、管理職が幼保小接続に関する研修に参加するよう働きかけを行いました。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	予定していた保育・授業研究会は計17回すべて実施しました。また、夏季校区研究会等の研修を通して、園と小中学校の教職員の情報交換や交流の機会を設けることができました。年間を通して、市内公立私立園17園中、15園の参加がありました。今後も、保育・授業研究会やさまざまな研修会を実施し、各園に周知と参加協力を行っていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	2	社会参画の意識を育む
施 策	1	キャリア教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	キャリア教育の推進
内容	キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動を学校教育全体で行うキャリア教育の要として位置付け、これからの学びや生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、自己の将来や社会づくりにつなげていく学習活動を充実させることが重要です。 そのために年間計画を見直し、小中学校のつながりが明確になるよう整理します。またその実施にあたっては、職場体験活動や社会人講話などの機会の確保に努めます。さらに職場体験活動などの固定的な活動だけに終わらないよう、地域住民とのふれあいや語らいを大切に、将来、児童生徒が社会のなかで自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現させていくための資質・能力を育みます。

3. 数値目標

内容(指標)	児童生徒自尊感情アンケート「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童生徒の割合			
令和5年度	実績	小学校 80.8% 中学校 62.6%		
令和6年度	実績	小学校 82.6% 中学校 68.1%		
令和7年度	数値目標	小学校 85.0% 中学校 70.0%	実績	小学校 81.5% 中学校 70.4%
令和11年度	数値目標	小学校 85.0% 中学校 70.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	各学校、キャリア教育の視点で、子どもの発達段階に応じた様々な取組が系統的に進められています。その中で「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童生徒の割合が、7月実施アンケートの結果では、小学校で85.6%、中学校で73.3%となり、現時点では数値目標を達成しています(12月にもアンケート実施予定)。今後も、子どもたちが「自分にもできる」「こんな大人になりたい」という肯定的な見通しをもてるような教育活動の充実に努めていきます。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	各学校、キャリア教育の視点で、子どもの発達段階に応じたさまざまな取組が系統的に進められました。その中で「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小学校で81.5%、中学校で70.4%となり、中学校では数値目標を達成する形となりました。次年度も引き続き、「自分のよさや興味に気づく」活動を重視し、日常の教育活動や体験的な活動が充実したものになるよう取組を進めていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	2	社会参画の意識を育む
施 策	2	主権者教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	主権者教育の推進
内容	本市では、政治の仕組みについて必要な知識を学ぶだけでなく、主権者として社会のなかで自立し、他者と連携・協働をしながら、社会を生きぬく力や社会の構成員の一員として主体的に地域課題を解決する力を育てます。 また、発達段階に応じて、小学校の段階から主権者教育に取り組みます。

3. 数値目標

内容(指標)	小中学校の各教科や特別活動における学びを地域へつなげる取組校数		
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校	
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校	
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績 全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	市内全小中学校において、各校がさまざまな教科や学年・校種に応じて、多様な他者と協働しながら学び教育活動を進めています。小学校は議会体験、中学校は生徒会サミット等もを湖南省議会の協力のもと、実施することができました。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	主権者教育の視点における取組として、小・中学校では、社会科の公民の領域において、政治について学習しました。小学校では、今年度も実際に東庁舎を訪れ、議会のしくみについて学んだり、湖南省のまちづくりに関わって、市役所の仕事について話を聞いたりすることで、社会の一員として、自分にできることは何かを考える学習に取り組みました。また、自分の学校やまちづくりの課題について、自分事としてとらえ、自らできることを考え行動する「実感の伴う学び」を、各学校で工夫して取り組むことができました。次年度も、各校の取組の情報共有を進めながら、さらに充実した取組ができるよう進めていきます。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B
上記がC・Dの場合はその理由		

令和7年度 湖南省教育事業評価シート

所管課 学校教育課・教育総務課

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	3	教育DXの推進
施 策	1	1人1台端末環境の充実
	2	教育活動でのICT活用の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	1人1台端末環境の安定的な運用
内容	1人1台端末を安定的に授業などで活用できるネットワーク環境の確保を図ります。 ICT機器を安心して学びに利用することができるよう、情報セキュリティの確保を図ります。
具体施策	教育活動でのICT活用の推進
内容	授業内容や児童生徒の実態に応じて、ICTを自在に活用して教育活動を行えることをめざし、教職員のICT活用指導力の向上に取り組みます。

3. 数値目標

内容(指標)	「ICTの活用」に関する学校アンケートのなかで、「児童・生徒がコンピューターやタブレット端末などのICT機器を使用した授業を実施していますか」に「ほぼ毎日活用している」と回答した教職員の割合			
令和5年度	実績	小学校 62.5% 中学校 50.0%		
令和6年度	実績	小学校 52.0% 中学校 41.2%		
令和7年度	数値目標	小学校 60.0% 中学校 50.0%	実績	小学校 61.7% 中学校 43.8%
令和11年度	数値目標	小学校 75.0% 中学校 65.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	5月に行ったアンケートでは、「児童・生徒がコンピューターやタブレット端末などのICT機器を使用した授業を実施していますか」の設問に対し、「担当する授業のほぼ毎回」、「担当する授業の半分ほど」と答えた教職員が小中学校で54.5%でした。(小:59.3%、中:50.4%) 教師力アップセミナーや校内研修をとおして、ICTを活用する良さをさらに広め、実際に授業で活かせるような取組を進めていきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	12月に行ったアンケートでは、「児童・生徒がコンピューターやタブレット端末などのICT機器を使用した授業を実施していますか」の設問に対し、「担当する授業のほぼ毎回」、「担当する授業の半分ほど」と答えた教職員が小中学校で54.5%でした。(小:61.7%、中:43.8%)中学校の割合は落ちていますが、1人1台端末の活用率については一定の安定がみられます。しかし、学校間の差が大きい実態があるため、今後はICT活用推進委員会などにおいて、効果的に活用している学校の事例を共有し、活用率が高まるように働きかけていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	4	信頼される学校を創る
施 策	1	安全教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	安全教育の実施
内容	警察署などと連携し、小学生は横断歩道の渡り方、中学生は自転車の安全な乗り方を中心とした交通安全教室を実施します。 また、消防署などと連携して避難訓練を実施します。授業時間中に予告して行う定期的な訓練だけでなく、休み時間の訓練や保護者への引き渡し訓練など、さまざまなケースを想定し工夫をして訓練に取り組みます。 不審者に遭遇した際には、その場を離れる、近くの人に助けを求めるといった対応が児童生徒に求められます。どのような場面においても自ら判断し対応できるよう、生徒指導担当を通して指導に取り組みます。

3. 数値目標

内容(指標)	消防署と学校防災教育コーディネーターが連携して行うモデル型避難訓練の実施校数			
令和5年度	実績	小学校 8校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績	全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	市内全小中学校13校において、消防署と連携した訓練を計画し、事前、事後の取組も行っています。また、警察と連携した不審者対応訓練を小学校で複数校実施しています。今年度は中学校においても警察と連携した訓練をすでに2校が実施しています。9月末現在、6校が実施済み。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	消防署と学校防災教育コーディネーターが連携した避難訓練については、消防署が訓練における事前事後のアドバイスだけでなく、直接訓練に加わるなど各校の実情に合わせた形での訓練が全小中学校にて行えました。また、取組の充実を図って、年度当初と年度末に教頭会において消防署を招き、説明と講評をいただく場を設けました。 不審者対応訓練については、小学校のみでなく、中学校においても2校実施することができました。今後、ブラインド訓練を取り入れるなど、より実践的な対応ができるようすすめていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	4	信頼される学校を創る
施 策	1	安全教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	安全教育の実施
内容	警察署などと連携し、小学生は横断歩道の渡り方、中学生は自転車の安全な乗り方を中心とした交通安全教室を実施します。 また、消防署などと連携して避難訓練を実施します。授業時間中に予告して行う定期的な訓練だけでなく、休み時間の訓練や保護者への引き渡し訓練など、さまざまなケースを想定し工夫をして訓練に取り組みます。 不審者に遭遇した際には、その場を離れる、近くの人に助けを求めるといった対応が児童生徒に求められます。どのような場面においても自ら判断し対応できるよう、生徒指導担当を通して指導に取り組みます。

3. 数値目標

内容(指標)	地域まちづくり協議会や保護者と連携して行う訓練の実施校数			
令和5年度	実績	小学校 8校		
令和6年度	実績	小学校 6校		
令和7年度	数値目標	小学校 7校 中学校 1校	実績	小学校 7校 中学校 0校
令和11年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	保護者と連携した避難訓練については、災害時や不審者対応の非常時においての引き渡し訓練を行っています。毎年実施している学校や隔年で行っている学校がありますが、全ての小学校において実施ができています。目的が引き渡しをスムーズに行うことになってしまっている傾向があるため、状況に応じた訓練が実施できるよう、目的を明確にした訓練を実施していきます。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	保護者と連携した避難訓練は市内小学校7校が実施しました。学校によっては毎年実施している学校もありますが、学校の実情に応じて2年に1度もしくは3年に1度の実施というところもあります。保護者との引き渡し訓練では、訓練を実施することが目的となってしまう部分もあり、保護者が車で来校できないケースなど、より実践的なケースを想定する必要があります。また、災害は休日や学校の職員がいない状況でも起こりうるため、今後は、地域と連携した避難訓練についてコミュニティスクール等で検討していくなど、引き渡し訓練以外の訓練にも重点を置いていく必要があります。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	4	信頼される学校を創る
施 策	1	安全教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	通学路などの安全対策
内容	児童生徒が安心して通学できるために、通学経路の確認や見直しを定期的実施することを促すと同時に、ボランティアや地域のさまざまな団体の協力を得ながら、児童生徒の登校中の見守り活動などの取組を推進します。 また、未就学児が日常的に集団で移動する経路についても同様に危険箇所を把握するため、湖南市通学路安全推進プログラムを見直します。通学路などに関わる関係機関が連携し、通学路や未就学児の移動経路の危険箇所についての合同点検の実施、対策の検討をはじめとする取組を効果的に進めながら安全確保に努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	通学路など危険箇所の合同点検箇所			
令和5年度	実績	33か所		
令和6年度	実績	27か所		
令和7年度	数値目標	30か所	実績	31か所
令和11年度	数値目標	39か所		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	合同点検実施日:9月11日、18日、25日、29日(4日間) 前年度:4日間 点検箇所:31か所(全小中学校) 前年度26箇所(全小中学校) —昨年度から1校園の要望上限数を2か所から3か所に増やし、より多くの危険箇所の把握に努めています。 合同点検は学校関係者だけでなく、区長、PTA、地域の関係者などに立ち会っていただき、より多くの関係者と危険箇所の状況把握や対策内容を共有することができています。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	通学路合同点検は延べ4日間行い、各校園2～3か所の要望を踏まえ、合計31か所の危険箇所を点検しました。合同点検では、行政関係者だけでなく、自治会長やPTA会長、学校の職員とさまざまな者で行うことで、危険箇所の把握だけでなく、安全対策についても情報共有を行うことができました。今後も学校園、保護者、地域の連携を強め、点検時に関わらず、日頃から情報共有をできるようにすすめていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	4	信頼される学校を創る
施 策	1	安全教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	通学路などの安全対策
内容	児童生徒が安心して通学できるために、通学経路の確認や見直しを定期的実施することを促すと同時に、ボランティアや地域のさまざまな団体の協力を得ながら、児童生徒の登校中の見守り活動などの取組を推進します。 また、未就学児が日常的に集団で移動する経路についても同様に危険箇所を把握するため、湖南省通学路安全推進プログラムを見直します。通学路などに関わる関係機関が連携し、通学路や未就学児の移動経路の危険箇所についての合同点検の実施、対策の検討をはじめとする取組を効果的に進めながら安全確保に努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	通学路など危険箇所の対策実施箇所			
令和5年度	実績	18か所		
令和6年度	実績	19か所		
令和7年度	数値目標	20か所	実績	19か所
令和11年度	数値目標	24か所		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	通学路など危険箇所の対策実施箇所については、合同点検を通じて各関係機関と連携し対応策を協議中です。通学路の緊急点検等の安全点検を引き続き実施し、対策を講じていきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	31か所を点検し、19か所においては対策をしていくということが決定し、既に実施している箇所もあります。危険箇所については、即対応できる箇所もあれば、時間がかかってしまう箇所、また、それぞれ利用者のモラルの問題もあります。一概に全てをすぐに実施することは難しいですが、各関係機関と連携し、引き続き対策を講じていきます。また、今後は通学路の環境面を整えるとともに、通学する側のモラルやマナーの指導、地域の見守りボランティア(スクールガードの)の増員などを強化していきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政 策	4	信頼される学校を創る
施 策	2	地域と共にあゆむ学校づくりの推進

2. 具体施策の概要

具体施策	地域へ情報発信する取組
内容	各校の活動の様子は、定期的な校報やホームページ、メール配信サービス、プレスリリースなどによって積極的に発信するように努めます。また、保護者懇談会や学校運営協議会などを通じて、学校の現状や今後の活動を広報していきます。さらに、学校公開や地域を交えて実施する行事などで活躍する子どもたちの様子を伝えていきます。学校評価としては、定期的に自己評価・学校関係者評価を継続しながら、客観的な視点でも学校の教育活動を評価できるように努めます。 各校では、「滋賀教育の日」の活動に賛同し、学校公開の場を設定しています。児童生徒への教育について、保護者や地域住民と共に考える場を継続して設けます。

3. 数値目標

内容(指標)	プレスリリースの合計数			
令和5年度	実績	年間 23回		
令和6年度	実績	年間 25回		
令和7年度	数値目標	年間 25回	実績	16回
令和11年度	数値目標	年間 26回		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	各校とも学校行事や保護者連絡等の対応について、ホームページや校報、メール配信サービス、デジタル連絡ツール「スクリレ」等を通じて積極的に保護者や地域に向けて情報を発信しています。特に昨年度10月から導入している「スクリレ」の活用が定着したことで、保護者と学校がよりスピーディーそして円滑に情報共有を行うことができています。 現在、プレスリリースは14回行い、市や各学校の特色ある取組を広く広報しています。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	プレスリリースの回数は、16回行うことができましたが、数値目標にとどきませんでした。しかし、各校とも保護者や地域向けにホームページや校報、メール配信サービス、デジタル連絡ツール「スクリレ」等を通じて情報発信は行うことができました。次年度はメディアを通じて広く広報し、各校の事業や魅力を積極的に発信できるように取り組みます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政策	5	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	学校施設の環境整備
内容	学校施設整備は、地域の拠点としての役割を踏まえつつ、良好で質の高い教育環境を確保できるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザインを推進しながら、防犯カメラの設置や体育館への空調設置、ICT環境の整備など、学校施設の機能向上を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	防犯カメラ設置校数			
令和5年度	実績	小学校 0校 (累計:小学校4校) 中学校 0校 (累計:中学校1校)		
令和6年度	実績	小学校 0校 (累計:小学校4校) 中学校 0校 (累計:中学校1校)		
令和7年度	数値目標	小学校 5校 (累計:全小学校9校) 中学校 3校 (累計:全中学校4校)	実績	小学校 5校 (累計:全小学校9校) 中学校 3校 (累計:全中学校4校)
令和11年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校 全小中学校13校に防犯カメラが設置されている状況		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	小学校5校、中学校3校の計8校を1本の工事案件として、7月10日に一般競争入札を行い、請負事業者が決定し、7月15日には請負契約を締結しました。その後、施工計画に基づき、工事実施に向けて現地調査を終了しました。9月30日現在では、契約工期である令和8年1月30日完了に向けて計画とおりの進捗であり、特に課題などありません。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	防犯カメラ設置工事は令和8年1月30日までに完了検査を実施し工事完了しました。これで小学校5校および中学校3校に防犯カメラの設置が完了しましたので、既に設置している学校も含めると市内の全小中学校に防犯カメラが設置完了となりました。 また、全小中学校に学校の入り口付近である門扉等に「防犯カメラ作動中」であることをお知らせする看板を設置しました。 これらのことにより、不審者対策や犯罪対策、それらに対して抑止力が働く等の効果があると考えています。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政策	5	教育環境の充実を図る
施策	1	学校環境整備の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	効率的な施設改修の推進
内容	小中学校施設の老朽化が進んでおり、計画的な長寿命化改修と適切な維持管理を行うことが重要であることから、「湖南省公共施設等総合管理計画個別施設計画」に基づき、限られた財源のなかで効率的に改修ができるよう取組を進めます。

3. 数値目標

内容(指標)	「湖南省公共施設等総合管理計画個別施設計画」に基づき、長寿命化工事実施校数		
令和5年度	実績	実績無し	
令和6年度	実績	実績無し	
令和7年度	数値目標	小学校 0校	実績 小学校 0校
令和11年度	数値目標	小学校 2校	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	「湖南省公共施設等総合管理計画個別施設計画」に基づき、令和6年度から継続して市内全小中学校の体育館の空調機設置工事を実施しています。夏休み期間に室内機の取付が完了し、配線、室外機およびガスタンク庫の設置を順次進めているところです。室外機の納品時期の違いから、各校によって進捗の違いが生じていますが、契約工期である12月末までの工事完了を目指して取り組んでいます。 なお、数値目標は「『湖南省公共施設等総合管理計画個別施設計画』に基づき、長寿命化工事実施校数」となっていますが、令和7年度は長寿命化改修工事の実施がないため、同計画に記載している体育館空調機設置工事を実施内容としています。
------------	---

10

実施内容(最終実績)	12月末には全小中学校での体育館空調機設置工事が完了しました。 災害時に避難所となる体育館に空調機を設置したことで、避難所の環境を整備することができました。また日常的な学校の教育活動では、「湖南省立小中学校体育館空調設備運用指針」を定め、令和8年1月からその運用指針により空調機を運用しております。特に夏場の運動時の熱中症対策としての効果があると考えています。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	1	学びの保障 ～自覚して学ぶ～
政策	5	教育環境の充実を図る
施策	2	学校給食の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	学校給食の効率的な運営
内容	園児や児童生徒に栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、栄養教諭による食指導や調理内容の充実に取り組みながら、学校との連携を密にし、残食率の低下に努めます。 また、コロナ禍前に実施していた各校での試食会や、給食センターの施設見学会を開催し、給食への関心を高めてもらいながら、残食率の低下につなげていけるよう努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	小中学校に提供した和え物献立の残食率			
令和5年度	実績	小学校 20.4% 中学校 24.0%		
令和6年度	実績	小学校 17.7% 中学校 22.6%		
令和7年度	数値目標	小学校 16.5% 中学校 21.7%	実績	小学校 17.8% 中学校 19.4%
令和11年度	数値目標	小学校 15.4% 中学校 20.7%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	残食率の平均値は、9月30日現在、小学校18.4%、中学校20.1%となっています。 今年度も栄養士による食指導を実施し、栄養をしっかりと取ることの大切さを伝えながら、残食率の低下に努めてきました。 課題として、給食センター職員および栄養士の働きかけだけでは、一時的なもので終わるため、教職員の協力が必要と考えます。 今後も、栄養バランスの大切さを伝える食指導を実施しながら、残食率の低下につながるよう努めていきます。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	残食率の平均値は、令和7年12月31日現在で、小学校17.8%、中学校19.4%となっています。中間報告時と比べて、残食率は小学校－0.6%、中学校－0.7%と減少しています。また、前年度実績より小学校は0.1%増、中学校は3.2%減少となりました。 残食率が上がった理由は、突発的な学級閉鎖によりその日の調理分が残食率に直結したと考えます。また、食指導の実施により一定の効果はありましたが、給食センターのみで残食率の低下を実現するには限界があり、継続的な効果を得るためには、学校と連携した取組を進めていく必要があると考えています。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政策	6	豊かな心を育む
施策	1	多文化共生教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	外国人児童生徒への学習支援
内容	さくら教室において、来日して間もない外国人児童生徒などに日本語指導や適応指導を行うとともに、必要に応じて教科などの指導を行って外国人児童生徒たちの学習権を保障します。 外国人児童生徒が多い学校に母語が分かる人材を派遣したり、翻訳機器を配置したりすることにより、児童生徒や保護者が安心して過ごせる教室環境をつくります。

3. 数値目標

内容(指標)	外国人児童生徒 支援や保護者対応のための翻訳機器の配置台数			
令和5年度	実績	20台		
令和6年度	実績	24台		
令和7年度	数値目標	26台	実績	26台
令和11年度	数値目標	26台		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	児童生徒や教職員に配布されているタブレットに内蔵されている翻訳・通訳アプリと併用していますが、ポケット(翻訳機器)は翻訳の精度の高さ、使いやすさから、有効に活用されています。特に昨年度購入した新型のポケットは、従来の機器より操作が簡単で精度も良く、スムーズなコミュニケーションが図れるようになりました。9月30日現在、26台。 第1回日本語教室窓口担当者会において、今年度の取組の重点を検討し、文化交流の充実について話し合いを行いました。その結果、各校の多文化共生教育の推進に向けた取組の実践交流や、資料共有をすることとなりました。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	ポCKETーク(翻訳機器)の台数は26台で、数値目標を達成できました。児童生徒や教職員に配布されているタブレットに内蔵されている翻訳・通訳アプリも併用して使用しています。 年間3回行っている日本語指導窓口担当者会においては、市内小中学校で多様な学びを共有することができました。また、さくら教室や市内小中学校の日本語教室での学習を保障するために、教材を購入し活用することができました。今後も、多様な外国人児童生徒の支援のために、必要な翻訳機器の配置や教材購入をすすめ、活用事例を共有し、児童生徒と保護者が安心して過ごせることをめざします。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	1	多文化共生教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	多文化共生教育の推進
内容	日本の伝統や文化を理解・継承していこうとする態度を養うとともに、外国の文化や考え方を理解して尊重する態度、異なる文化をもった人々と共に互いを認め合いながら生きていく力を育てます。

3. 数値目標

内容(指標)	すまいりー事業実施回数			
令和5年度	実績	19回		
令和6年度	実績	16回		
令和7年度	数値目標	19回	実績	19回
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	7月23日～8月28日の期間で19回、すまいりー事業を行いました。各小学校で開催し、校区内の中学生も参加しました。(参加申込人数は100名)小中学校の教員、地域のボランティア、学校勤務の通訳者や国際協会の紹介による通訳者、滋賀大学教育学部国際理解教育専攻の学生・教授にも協力いただいで実施することができました。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	すまいりー事業は目標通り19回実施することができ、外国にルーツのある子どもの学習や仲間づくりを行うことができました。各小中学校では、多文化共生をテーマに授業をしたりレクリエーションをしたりするなどの取組もしています。また、外国にルーツのある児童生徒交流会を小学校は中学校区(甲西・甲西北は合同、石部、日枝)ごと、中学校は4中学校合同で行い、異文化交流や仲間づくりをテーマに活動をしました。来年度も、継続して取組を進めていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	2	道徳力を身に付けた子どもの育成

2. 具体施策の概要

具体施策	道徳教育の推進
内容	特別の教科である道徳を要として、教育活動全体を通じて、自身の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育を推進します。

3. 数値目標

内容(指標)	自尊感情児童生徒アンケート 「人が困っているときに助けている」の項目の肯定的な回答をした割合			
令和5年度	実績	小学校 79.9% 中学校 76.5%		
令和6年度	実績	小学校 89.7% 中学校 88.5%		
令和7年度	数値目標	小学校 85.0% 中学校 85.0%	実績	小学校 89.7% 中学校 88.5%
令和11年度	数値目標	小学校 85.0% 中学校 85.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	自尊感情児童生徒アンケート「人が困っているときに助けている」(数値は7月実施アンケートの結果)の項目は、小学校91.0%、中学校84.0%となりました。小学校は、年度当初の数値目標を現時点では、達成しています。中学校は、目標数値にわずかに届いておりません。今後も引き続き、子どもたちの「居場所」「出番」を大切にしながら、教育活動全体を通しためざす子どもの姿に迫る取組を各校にて継続します。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	自尊感情児童生徒アンケート「人が困っているときに助けている」(数値は12月実施アンケートの結果)の項目は、小学校89.7%、中学校88.5%となりました。小学校・中学校ともに、数値目標を達成できました。今年度、子どもが主体的に活動できるような授業や行事を進めてきました。それにより、自己肯定感や自己効力感が育まれ、助け合いにつながりました。来年度も道徳の授業だけでなく、教育活動全体を通して道徳力を身につけられるよう各校にて取組を継続します。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政策	6	豊かな心を育む
施策	3	人権教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	湖南省人権教育ネット推進事業の推進
内容	一人ひとりの子どもを中心とした、就学前から高校卒業までの連携した取組のなかで、人権を大切にする子どもを育成するとともに、学校、園、家庭、地域、関係機関が連携した取組を通じて、進路保障の実現をめざします。 また女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人、性の多様性などの人権に関わる課題の解決に向け、命と人権を大切にする教育を推進します。

3. 数値目標

内容(指標)	中学校区ごとの人権主任等連絡会議の開催回数			
令和5年度	実績	各6回		
令和6年度	実績	各中学校区 6回		
令和7年度	数値目標	各中学校区 6回	実績	各中学校区 6回
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日時点で、市内の各校園の人権同和教育主任が集まる連絡会議を、全中学校区でそれぞれ3回行っており、就学前から県立学校までの子どもの情報交換を行い、連携して動く体制を構築しています。 また、これまでに基底プラン・校区プランについて人権同和教育授業研究会で周知を行ったとともに、各中学校区で学習会を1回ずつ行っています。後期にも学習会を1回予定しています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	市内の各校園の人権主任が集まる会議を、各中学校区で6回ずつ行いました。会議の中で就学前から高校までの子どもの情報交換を行い、支援の方策の検討など関係機関と連携して進めることができました。 基底プランについては、保育・授業研究会で理解、周知を行うだけでなく、各中学校区で小中学校の教員向け学習会と園の保育士向け学習会を1回ずつ行いました。 今後も継続して、連絡会議や学習会を開催します。 学習会は学区ごとの課題や実態に合わせて内容をブラッシュアップし、参加者が増えるように開催時期や場所も柔軟に検討していきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	3	人権教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	湖南省学校・園人権教育基底プランの実施
内容	湖南省学校・園人権教育基底プランに基づく保育・授業の実践を通して、発達段階に応じた系統的な人権保育・教育に取り組みます。 また、令和4年度末に改訂した湖南省学校・園人権教育基底プランが、現状の人権課題に沿ったものとして、人権保育・教育が推進できるよう、授業研究会や研修会の場を活用しながら、理解促進のため内容の周知を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	湖南省学校・園人権教育基底プランに基づく保育や授業研究会の実施校・園数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校 公立保育園・こども園 1園(4園で輪番) 県立学校3校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校 公立保育園・こども園 1園(4園で輪番) 県立学校3校		
令和7年度	数値目標	継続	実績	全ての小中学校と公立こども園1園、 県立学校3校が実施
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	今年度も市内全小中学校と公立園1園、県立学校3校が実施予定です。現時点では、小学校4校、公立園1園、県立学校1校が開催済みであり、令和8年1月末までに、市内全校・園が実施を予定しています。現在、各校内で指導案検討などを進めており、必要に応じて学校教育課も助言等を行っています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	人権教育基底プランに基づく保育・授業研究会を、全ての小中学校13校と公立こども園1園、県立学校3校で実施しました。指導案の検討や事前授業の参観などを通して、市内の教職員、保育士が顔の見える交流を行い、より実践的な授業、保育の研究を行うことができました。 今後も、各校の人権担当と連携を密にしながら、各校の課題や現状に合わせた授業検討を行っていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	4	読書活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進	
内容	子どもが読書意欲を高め、読書習慣を身に付けることができるよう、乳幼児から発達段階に応じて読書の楽しさを実感できるようにするとともに、いつでも本に親しむことができる読書環境の充実に向けて、子どもと本をつなぐ大人への啓発や人材育成、子どもが本や物語に出会う機会の提供、本を活用した学びの機会の充実といった取組を「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づき、計画的・組織的に推進します。 公立図書館では、子どもの成長に資する児童図書やアクセス可能な図書の収集と提供を行いながら、おはなし会や人形劇、ブックトークなど、本に親しむ機会づくりに努めるとともに、幼児向けの読み聞かせ用図書の貸出を行います。 また、ブックスタート事業を実施するとともに、乳幼児健診などの機会を活用した幼児期からの「はじめての本」との出会い、親子のふれあい、公立図書館の児童奉仕活動への誘引、啓発などを進めます。また、子どもの読書活動を推進する司書のスキルアップを図ります。 学校図書館では、これまでの研究成果を踏まえ、学校司書および学校図書館支援センターの役割を明確にし、子どもたちの読書活動を一層推進します。 また、学習・情報センターとしての機能のさらなる充実を進めます。 読み聞かせや蔵書整理など、学校司書の資質向上を図るための研修機会を確保します。さらに、学校全体で読書活動が推進できるよう、司書教諭を核とする充実した図書館教育を進めます。	

3. 数値目標

内容(指標)		学校図書館の児童生徒1人あたりの年間貸出冊数		
令和5年度	実績	小学校 53.9冊 中学校 11.6冊		
令和6年度	実績	小学校 42.5冊 中学校 7.05冊		
令和7年度	数値目標	小学校 45冊 中学校 10冊	実績	見込み値 小学校30.1冊 中学校4.6冊 (教員含む、12月末数値)
令和11年度	数値目標	小学校 58.0冊 中学校 14.0冊		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	図書委員や学校司書によるイベントにより、学校図書館を利用する児童生徒が増加しています。中学校では貸出冊数が少ない傾向にあるため、帯コンとコラボなどを行い、貸出冊数を増やしていきます。9月30日時点で小学生一人あたり22.8冊、中学生3.4冊。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	小学校では、委員会児童が紙芝居の読み聞かせをする等、「図書室に行ってみよう」、「本を借りてみよう」という思いになるイベントを通じて、本の面白さを伝えました。 中学校では、小学校に比べて開館時間も短いので、貸出冊数は少ないですが、オビコンなどのイベント時とコラボして貸出冊数を増やしていきます。 取組の成果が数値には表れてはいませんが、児童生徒が本を読みたくなる取組を続けていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		C	
上記がC・Dの場合はその理由		授業での図書館活用は進んでいるものの、図書の貸出につながるような働きかけが十分でなかったため。	

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	4	読書活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進
内容	子どもが読書意欲を高め、読書習慣を身に付けることができるよう、乳幼児から発達段階に応じて読書の楽しさを実感できるようにするとともに、いつでも本に親しむことができる読書環境の充実に向けて、子どもと本をつなぐ大人への啓発や人材育成、子どもが本や物語に出会う機会の提供、本を活用した学びの機会の充実といった取組を「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づき、計画的・組織的に推進します。 公立図書館では、子どもの成長に資する児童図書やアクセシブルな図書の収集と提供を行いながら、おはなし会や人形劇、ブックトークなど、本に親しむ機会づくりに努めるとともに、幼児向けの読み聞かせ用図書の貸出を行います。 また、ブックスタート事業を実施するとともに、乳幼児健診などの機会を活用した幼児期からの「はじめての本」との出会い、親子のふれあい、公立図書館の児童奉仕活動への誘引、啓発などを進めます。また、子どもの読書活動を推進する司書のスキルアップを図ります。 学校図書館では、これまでの研究成果を踏まえ、学校司書および学校図書館支援センターの役割を明確にし、子どもたちの読書活動を一層推進します。 また、学習・情報センターとしての機能のさらなる充実を進めます。 読み聞かせや蔵書整理など、学校司書の資質向上を図るための研修機会を確保します。さらに、学校全体で読書活動が推進できるよう、司書教諭を核とする充実した図書館教育を進めます。

3. 数値目標

内容(指標)		公立図書館の児童図書の12才以下の子ども1人あたりの年間貸出冊数		
令和5年度	実績	14.8冊		
令和6年度	実績	14.5冊		
令和7年度	数値目標	15.0冊	実績	14.8冊
令和11年度	数値目標	16.1冊		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日現在で、公立図書館の児童書の貸出冊数が41,768冊、12歳以下の子どもの人口が5,518人で、一人当たりの貸出冊数は7.6冊です。 夏休み図書リストの作成・配布や、時季ごとの本の特設コーナーの設置、ポイントラリー(中学生以下の子どもが本を借りたり事業に参加するとポイントがつき、5ポイントで参加賞がもらえる)など、児童の貸出促進に努めています。 また、おはなし会や映画会、児童文学講演会、おりがみ教室、絵本原画展などの機会に関連本を揃えて提供するなどしました。 ブックスタートでは、保護者に読み聞かせの大切さを伝えるとともに、ブックリストや図書館利用案内を渡しています(9月30日現在147組)。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	昨年度の実績から石部館、甲西館、移動図書館車を合わせた児童の貸出人数はほぼ横ばいですが、貸出冊数は微減しています。児童の人口も減っているため、一人当たりの冊数は昨年から微増したものの、目標値には及びませんでした。 令和8年3月末に改定した湖南省子ども読書活動推進計画に基づき、今後も子どもと読書に関わる機関などと協力し、さらに子どもに向けてのサービスを進めていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	4	読書活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進
内容	子どもが読書意欲を高め、読書習慣を身に付けることができるよう、乳幼児から発達段階に応じて読書の楽しさを実感できるようにするとともに、いつでも本に親しむことができる読書環境の充実に向けて、子どもと本をつなぐ大人への啓発や人材育成、子どもが本や物語に出会う機会の提供、本を活用した学びの機会の充実といった取組を「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づき、計画的・組織的に推進します。 公立図書館では、子どもの成長に資する児童図書やアクセシブルな図書の収集と提供を行いながら、おはなし会や人形劇、ブックトークなど、本に親しむ機会づくりに努めるとともに、幼児向けの読み聞かせ用図書の貸出を行います。 また、ブックスタート事業を実施するとともに、乳幼児健診などの機会を活用した幼児期からの「はじめての本」との出会い、親子のふれあい、公立図書館の児童奉仕活動への誘引、啓発などを進めます。また、子どもの読書活動を推進する司書のスキルアップを図ります。 学校図書館では、これまでの研究成果を踏まえ、学校司書および学校図書館支援センターの役割を明確にし、子どもたちの読書活動を一層推進します。 また、学習・情報センターとしての機能のさらなる充実を進めます。 読み聞かせや蔵書整理など、学校司書の資質向上を図るための研修機会を確保します。さらに、学校全体で読書活動が推進できるよう、司書教諭を核とする充実した図書館教育を進めます。

3. 数値目標

内容(指標)	おはなし会などの年間開催数		
令和5年度	実績	34回	
令和6年度	実績	51回	
令和7年度	数値目標	48回	実績 60回
令和11年度	数値目標	48回	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	毎月のボランティアによるおはなし会および、職員による乳幼児対象のおはなし会に加え、こどもの読書週間や夏休み期間に園児・小学生を対象に開催し、9月30日現在で、甲西図書館で23回、石部図書館で8回、合わせておはなし会を31回開催しました。また、夏休みにはボランティア団体と共催で「紙芝居と本を楽しむ会」を開催しました。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	毎月のボランティアによるおはなし会および、職員による乳幼児対象のおはなし会に加え、こどもの読書週間、学校の休みの期間に園児・小学生を対象に開催し、今年度は甲西図書館で45回、石部図書館で15回、合わせておはなし会を60回開催しました。また、夏休みにはボランティア団体と共催で「紙芝居と本を楽しむ会」を開催しました。以上の事業により、子どもが本や言葉に親しむきっかけづくりとなりました。今後も毎月のおはなし会開催に加えて、読書週間や夏休みなどに開催します。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	6	豊かな心を育む
施 策	4	読書活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づく読書活動の推進
内容	子どもが読書意欲を高め、読書習慣を身に付けることができるよう、乳幼児から発達段階に応じて読書の楽しさを実感できるようにするとともに、いつでも本に親しむことができる読書環境の充実に向けて、子どもと本をつなぐ大人への啓発や人材育成、子どもが本や物語に出会う機会の提供、本を活用した学びの機会の充実といった取組を「湖南省読書の魅力種まきプラン」に基づき、計画的・組織的に推進します。 公立図書館では、子どもの成長に資する児童図書やアクセシブルな図書の収集と提供を行いながら、おはなし会や人形劇、ブックトークなど、本に親しむ機会づくりに努めるとともに、幼児向けの読み聞かせ用図書の貸出を行います。 また、ブックスタート事業を実施するとともに、乳幼児健診などの機会を活用した幼児期からの「はじめての本」との出会い、親子のふれあい、公立図書館の児童奉仕活動への誘引、啓発などを進めます。また、子どもの読書活動を推進する司書のスキルアップを図ります。 学校図書館では、これまでの研究成果を踏まえ、学校司書および学校図書館支援センターの役割を明確にし、子どもたちの読書活動を一層推進します。 また、学習・情報センターとしての機能のさらなる充実を進めます。 読み聞かせや蔵書整理など、学校司書の資質向上を図るための研修機会を確保します。さらに、学校全体で読書活動が推進できるよう、司書教諭を核とする充実した図書館教育を進めます。

3. 数値目標

内容(指標)	公立図書館におけるアクセシブルな児童用図書などの冊数			
令和5年度	実績	49冊		
令和6年度	実績	66冊		
令和7年度	数値目標	75冊	実績	77冊
令和11年度	数値目標	100冊		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	新規に出版されたLLブックを購入し、「りんごの棚」(特別なニーズのある子どもたちのための資料を展示した棚)の点数を11点増やし、9月30日現在で公立図書館のアクセシブルな児童図書冊数は77冊になりました。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	新規に出版されたLLブックを購入し、「りんごの棚」(特別なニーズのある子どもたちのための資料を展示した棚)の点数を11点増やし、12月31日現在で公立図書館のアクセシブルな児童図書冊数は77冊になりました。ニーズのある子どもに提供するとともに、必要性を伝えることができました。今後も出版されるアクセシブルな図書や寄贈資料を受入していきます。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政策	7	健やかな体を育む
施策	1	健康教育の推進・子どもの体力向上への取組

2. 具体施策の概要

具体施策	生活習慣の確立
内容	心身の健康の保持増進を図るために、必要な知識を習得し、健康・安全を適切に自主管理する能力や資質を育てます。子どもの時期から規則正しい生活を身に付けることにより、病気から身体を守り、心身ともに健康な体を養います。

3. 数値目標

内容(指標)	1日の睡眠時間が8時間以上の割合			
令和5年度	実績	小学校 68.8% 中学校 25.4%		
令和6年度	実績	小学校 71.4% 中学校 33.5%		
令和7年度	数値目標	小学校 72.0% 中学校 33.5%	実績	小学校 75.0% 中学校 41.3%
令和11年度	数値目標	小学校 70.0% 中学校 30.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	市内全小中学校において、養護教諭部会が中心となり、基本的な生活習慣の見直しの取組を行っています。早寝、早起き、朝ごはんの啓発はもちろん、寝る前のスマホやICT機器の利用制限などの指導も進めているところです。また、家庭との協力は不可欠であるため、保護者への啓発についても強化していきます。 ※スポーツ庁アンケートは7月実施、結果公表は翌年1月中旬の予定です。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	市内全小中学校において、養護教諭を中心に基本的な生活習慣に関わる指導や啓発を行うことができました。生活習慣調査の結果としては、目標より高い結果が得られています。また、睡眠時間に加えて、スマホや動画等の視聴時間についても併せて考えていく必要があります。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	7	健やかな体を育む
施 策	1	健康教育の推進・子どもの体力向上への取組

2. 具体施策の概要

具体施策	学校体育の充実
内容	「子どもの学びづくりプロジェクト」において体育科の授業についても授業改善を行います。「授業の湖南省スタイル」を活用し、子どもが主体となる授業を展開します。 また、始業前や中休み、昼休み、放課後、下校後など、教科外の時間においても運動遊びを奨励し、子どもたちに運動遊びの習慣化と体力の向上を図ります。 子どもを運動好きにすることをめざして、小学校では「健やかタイム」を継続し、中学校では「新体力テスト」の結果をいかした体力づくりを実施するなど、運動やスポーツを楽しみ、心身ともに健康な子どもの育成に努めます。

3. 数値目標

内容(指標)		児童生徒の1週間の運動スポーツ実施時間が420分以上の割合(授業を除く)		
令和5年度	実績	小学校 男子 48.4% 女子 26.2% 中学校 男子 74.2% 女子 53.9%		
令和6年度	実績	小学校 男子 45.4% 女子 22.6% 中学校 男子 78.0% 女子 54.9%		
令和7年度	数値目標	小学校 男子 50.0% 女子 23% 中学校男子 78.0% 女子 55%	実績	小学校 男子 43.6% 女子 18.5% 中学校男子 82.6% 女子 60.5%
令和11年度	数値目標	小学校 男子 53.2% 女子 28.8% 中学校 男子 77.0% 女子 57.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	運動に親しむ児童生徒が二極化しており、数値以上に深刻な問題であります。だからこそ、学校における体育科の学習の充実が求められています。子どもたちが主体的に運動に取り組める授業展開はもちろん、1授業時間内の運動量や運動時間の確保にも努めています。また、学校行事や児童生徒の主体的なイベントにも運動を取り込み、運動に親しめる時間を少しでも増やしていきます。 ※スポーツ庁アンケートは7月実施、結果公表は翌年1月中旬の予定です。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	市内小学校において、体育の学習や行事に関連付けた運動遊びを推奨する取組(リレー大会や業間マラソン、なわとび大会など)を行いました。しかしながら、運動に親しむ児童が二極化しており、授業以外に運動に取り組まない児童が非常に増えている結果になりました。中学校においては、部活動や地域クラブに所属している生徒が多く、運動量が確保されています。今後、小学校において運動遊びを推奨する取組をさらに拡充していきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	7	健やかな体を育む
施 策	2	学校保健の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	学校における保健衛生の充実
内容	子どもの生活習慣の改善・向上を図るためには、正しい知識や望ましい生活リズムを身に付けることが必要であり、家庭や地域と連携した取組を進めます。 また、アレルギー疾患や喫煙防止、薬物乱用などに関する課題や、いじめ・不登校などのメンタルヘルスの課題に対応するため、関係各課との連携を図り、保健衛生の充実を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	小中薬物乱用防止教室や喫煙防止教室、SOSを出す教育、がんなどの教育実施校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績	全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	薬物乱用防止教室や喫煙防止教室については、市内全小中学校において実施済み、もしくは実施予定の状況となっています。また、希死念慮を抱いたり、自傷行為をしたりとさまざまなストレスを抱えている児童生徒がSOSを出せる力を育てる教育にも取り組んでいます。健康政策課の保健師から出前授業を受ける取組を今年度、中学校1校において実施することができています。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	薬物乱用防止教室や喫煙防止教室については、市内全小中学校において実施できました。希死念慮を抱いたり、自傷行為をしたりとさまざまなストレスを抱えている児童生徒がSOSを出せる力を育てる研修についても中学校1校において実施することができました。今後、さらに取組を広めていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政策	7	健やかな体を育む
施策	3	食育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	学校における食育の推進
内容	望ましい食習慣の形成には幼少期からの規則正しい食生活が重要です。しかしライフスタイルの多様化により、家庭だけで望ましい食習慣を身に付けることは困難となっています。家庭の次に多くの時間を過ごす小中学校での食育を充実させ、家庭・地域との連携を図りながら、地産地消を取り入れた給食の提供や偏食の減少などの推進に力を入れ、望ましい食習慣の形成を支援していきます。 また、教材を用いた食育指導や栄養教諭、学校栄養士、調理師などによる食育授業を充実させ、児童生徒が給食の献立作成をする体験や食について学ぶ機会を増やしていきます。

3. 数値目標

内容(指標)	毎日朝食を食べる児童生徒の割合			
令和5年度	実績	小学校 72.0% 中学校 77.5%		
令和6年度	実績	小学校 79.5% 中学校 74.5%		
令和7年度	数値目標	小学校 80.0% 中学校 75.0%	実績	小学校 76.3% 中学校 73.4%
令和11年度	数値目標	小学校 86.0% 中学校 86.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	朝食摂取率の結果はまだ出ていません(例年2月頃)。各校で日々の食指導や、「保健だより」などによる保護者啓発を行っています。栄養教諭や学校栄養士による食育授業だけでなく、朝食摂取率は家庭的な背景が影響することが多いため、園・学校と家庭が連携を図りながら望ましい食習慣の形成を支援していきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	朝食摂取率は、小学校 76.3%、中学校 73.4%となり、ともに減少傾向が見られました。今年度も、市内すべての小学校、栄養教諭の配置されている中学校で、発達段階に応じた「食育」の学習を実施できました。望ましい食習慣の形成は、学校教育だけでは完結しないため改めて、施策の重層化が必要であると考えられます。学校教育においては、引き続き、保護者への啓発、食指導における「朝食の意義」を実感できる学習、生活リズム全体への働きかけなどの充実を図っていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政策	7	健やかな体を育む
施策	3	食育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	学校における食育の推進
内容	望ましい食習慣の形成には幼少期からの規則正しい食生活が重要です。しかしライフスタイルの多様化により、家庭だけで望ましい食習慣を身に付けることは困難となっています。家庭の次に多くの時間を過ごす小中学校での食育を充実させ、家庭・地域との連携を図りながら、地産地消を取り入れた給食の提供や偏食の減少などの推進に力を入れ、望ましい食習慣の形成を支援していきます。 また、教材を用いた食育指導や栄養教諭、学校栄養士、調理師などによる食育授業を充実させ、児童生徒が給食の献立作成をする体験や食について学ぶ機会を増やしていきます。

3. 数値目標

内容(指標)	食育指導や食育授業、ふれあい食育教室の実施校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 中学校 1校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 中学校 1校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 中学校 1校	実績	全小学校 9校 中学校 1校
令和11年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	今年度も栄養教諭による食に関する指導は、市内小学校1・3・6年生を対象に計画し、9校全ての小学校において順調に実施されています。また、中学校においても、栄養教諭を中心に1校、実施しています。今後も、栄養教諭と各学級担任が連携をとり、食に関する指導が、さらに充実したものになるよう取り組んでいきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	今年度も栄養教諭による食に関する指導が、市内小学校1・3・6年生を対象に計画され、9校全ての小学校において実施されました。発達段階に応じた学習内容を担当学年の教諭と丁寧に打合せを重ね実施できました。中学校でも、栄養教諭配置校では、家庭科担当教諭と授業を計画し、今年度は「減塩」を視点に授業を実施できました。今後、すべての中学校で実施できるように担当者間で準備を進めていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A	
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	8	一人ひとりが大切にされる教育・支援
施 策	1	特別支援教育の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	インクルーシブ教育を実現するための特別支援教育体制整備	
内容	合理的配慮の決定・合意形成のためにアセスメントの充実を図り、インクルーシブ教育システムの構築に向けて基礎的環境の整備に努めます。巡回相談を活用し、個に応じた適切な就学支援を進めるとともに、巡回相談担当者会議や湖南省専門家チーム会議で、より専門的な立場からの検討や医療的な助言を得られるようにします。 子どもたち一人ひとりの特性や障がいの状況・程度などを的確に捉えた「個別的教育支援計画・指導計画」を作成し、その能力を最大限に伸ばすよう努めます。 また、湖南省発達支援システムを活用しながら関係機関と連携し、子どもが自立し社会参加できる力を一層高めます。保護者・本人との合意形成を図りながら合理的配慮を提供できるよう、保護者への「個別の指導計画」の作成を行い、活用を図ります。子どもの教育的ニーズに最も応えられる学びの場を検討する、就学支援委員会の取組を継続して行います。 また、通常の学級・特別支援学級における支援のあり方を視点とする授業改善を推進し、一人ひとりの学力の向上に努めます。	
具体施策	ことばの教室の運営	
内容	各中学校区に、ことばの教室を設置しており、アセスメントに基づいた個別の指導を実施します。 また、一人ひとりの教育的ニーズを受け止めることができるよう、各中学校区に設置されている通級指導教室においても、通級指導と相談支援の充実を図ります。 湖南省発達支援ITネットワークを活用し、指導記録を蓄積するとともに、園・小中学校訪問により、関係機関と園・小中学校との連携強化に努めます。加えて、市内の保育・教育関係者を対象として研修会を開催し、市内全体の特別支援教育の質の向上を図ります。 全小・小1・2年生に読み書きチェックを実施し、その結果や支援についての情報を各小中学校に提供することで、読み書きの力を高める取組を進めます。	

3. 数値目標

内容(指標)	「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」の作成・活用に関する研修の実施校数			
令和5年度	実績	全小中学校 9校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小中学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小中学校 9校 全中学校 4校	実績	全小中学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	夏休み前～夏休み期間中に全小中学校において教員対象の研修を実施しました。研修時間内に実際に作成する時間を持ち、作成が必要な児童生徒の見立ての仕方や必要と思われる合理的配慮の具体的な内容について、巡回相談員から担任へ直接助言を行った学校もありました。次年度以降も継続して研修の機会をもち、より効果的な「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」の作成を目指します。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	前期に実施した研修により、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズをつかみ、より実態に即した効果的な「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」の作成に近づけることができました。また、活用においては学校ごとで取組程度に差はありますが、年度始めに担任や関係教員で「個別の指導計画」を読み合ったり、関係機関が集まるケース会議内で作成した「個別的教育支援計画」の内容をもとに情報連携を図ったりするなど、好事例も見られました。次年度は、継続的な研修の実施に加え、活用の参考となる好事例を取りあげ各校へ広め、さらなる活用を目指します。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	8	一人ひとりが大切にされる教育・支援
施 策	2	さまざまな困難を抱えた児童生徒への支援・相談体制の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	いじめの未然防止・早期発見・早期対応
内容	湖南省いじめ問題対策連絡協議会等条例」および「湖南省いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組めます。 いじめや命の大切さについて考える取組は各校で実施し、「児童生徒が主体となった特色ある活動」を展開することにより、一人ひとりが「いじめはいけない」と認識し、進んで行動しようとする決意をもった児童生徒を育てます。 また、自尊感情の向上のために「地域の行事への積極的な参加」を呼びかけ、地域と共に子どもを育てる取組を進めていきます。今後は、各校で子どもたち自身が命の大切さを自覚し、「青春祭(あおはるさい)『湖南省青少年育成大会』」などの場を活用したり地域にも発信したりすることを通して、いじめをなくすための行動を起こせるよう取組を工夫します。

3. 数値目標

内容(指標)	スクールカウンセラーまたはスクールソーシャルワーカーの配置校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績	全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーともに全小中学校に配置することができています。(小学校9校、中学校4校に配置)不登校児童・生徒や悩みを抱えている生徒の相談、また保護者相談に迅速に対応することができました。いじめ対策においても、発達支持的生徒指導の視点から、いじめ未然防止の取組を各校で進めています。滋賀県派遣のスクールカウンセラー5名、スクールソーシャルワーカー2名、および市委嘱のスクールソーシャルワーカー1名を全小中学校に配置しています。生徒の悩みや不安を傾聴し、家庭環境などに支援を必要とすれば、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問なども実施し、生徒自身や環境に働きかける取組を実施しています。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーともに全小中学校に配置し、個別の必要性に応じた関わりを実施できました。スクールカウンセラーは心の悩みや不安を傾聴し、心理面での支援を行い、スクールソーシャルワーカーは他機関との相談連携をすることで環境面での支援を行うことで生徒や保護者が抱える困難に寄り添った取り組みができました。今後も他機関と連携しながら児童生徒に寄り添い、多面的な支援を行います。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	8	一人ひとりが大切にされる教育・支援
施 策	2	さまざまな困難を抱えた児童生徒への支援・相談体制の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	さまざまな今日的教育課題への対応
内容	不登校児童生徒数の減少に向けた取組として、巡回相談システムなどを利用し、迅速かつ丁寧な対応を進めます。ケースによってはふれあい教育相談室での指導を視野に入れ、教室復帰に向けた取組を行っていきます。

3. 数値目標

内容(指標)	不登校児童生徒の関係機関との連携率			
令和5年度	実績	小学校 71.4% 中学校 79.6%		
令和6年度	実績	小学校 90.0% 中学校 79.2%		
令和7年度	数値目標	小学校 90.0% 中学校 85.0%	実績	小学校 90.9% 中学校 76.3%
令和11年度	数値目標	小学校 90.0% 中学校 85.0%		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日現在の進捗状況は小学校86.7%、中学校58.5%です。目標達成に向けて、巡回相談担当者会議内で各校の状況について情報共有し、巡回相談担当者から各校へ適切な対応についての助言を行っていきます。また、校内の不登校対策の強化にむけて、教職員向けの研修会開催や他市の校内支援センター(SSR)における取組視察等を行いました。
------------	--

実施内容(最終実績)	各校からの長期欠席者月例報告を巡回相談担当者会議内で共有し、関係機関との連携を図り不登校対策に取り組んできました。小学校は数値目標を上回りましたが、中学校は一步及ばない結果となりました。しかし、教職員向けの研修会や他市の校内支援センターの視察等を実施し、欠席が増え始めた段階での対応について再確認するとともに、長期欠席に至らないようにするための対策強化に向けて取り組むことができました。次年度は校内における不登校対策に更に力を入れ、各関係機関とよりタイムリーな連携を図ります。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	8	一人ひとりが大切にされる教育・支援
施 策	2	さまざまな困難を抱えた児童生徒への支援・相談体制の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	組織対応と関係機関との連携強化
内容	園・学校や関係機関が、子どもや家庭を支える仕組みづくりをめざすために社会福祉士・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーや、関係機関と連携したケースワークを行います。 そのために、各課題に対して長期・短期目標、役割分担を明確にしたアセスメントを立て、無理や無駄のない運営に留意していきます。「アセスメントシート」、「湖南省発達支援ITネットワークの記録」を蓄積することにより、ケース担当者が替わっても支援体制を引き継いでいくシステムを確立していきます。

3. 数値目標

内容(指標)	教育委員会から小中学校へ関係機関の活用促進・連携強化に伴う指導・働きかけ回数			
令和5年度	実績	年間2回×13校		
令和6年度	実績	年間3回×13校		
令和7年度	数値目標	年間3回×13校	実績	年間3回×13校
令和11年度	数値目標	年間3回×13校		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	6月～8月にかけて市内全小中学校に訪問し、学校管理職、生徒指導、学区担当のスクールソーシャルワーカーと市家庭児童相談室、子ども家庭総合センター、教育委員会社会福祉士とで情報共有を行いました。早期介入を要するケースについては、自宅訪問や、より広い関係者を招集したケース会議を実施し、課題の整理と対策について協議を行いました。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	年度初めの校長会や小中特別支援教育コーディネーター連絡会にてアセスメントシートを提示しながら共通理解を図り、積極的な活用を進めることができました。2月に開催の保育園・幼稚園・こども園と小中合同の特別支援教育コーディネーター連絡会では、学校がスクールソーシャルワーカーと連携して取り組んだ好事例について紹介しました。また、市家庭児童相談室、子ども家庭総合センター、教育委員会社会福祉士による学校訪問を全校実施しました。さらに、学校関係者を含めた個別のケース会議に4～12月までで22回参加し、情報共有と課題の整理を行いました。今後も関係機関との連携を図り、継続的に課題の整理と対策に取り組めます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	8	一人ひとりが大切にされる教育・支援
施 策	3	多様な学びの機会や居場所の確保

2. 具体施策の概要

具体施策	多様な状況に応じて義務教育を提供する夜間学級の運用
内容	困難を背景として、学びのニーズが多様化している状況を踏まえ、自分に合った学びができる機会や居場所の確保を支援します。 義務教育を受ける希望をもつ学齢超過者が学ぶ機会となる夜間学級を設置し、多様な学びの機会の実現を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	夜間学級に在籍する生徒の「個別の指導計画」作成率		
令和5年度	実績	実績無し	
令和6年度	実績	実績無し	
令和7年度	数値目標	100.0%	実績 100.0%
令和11年度	数値目標	100.0%	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	1学期は生徒一人ひとりと教職員との信頼関係の構築に重きを置き、教育相談等を随時行う中で、丁寧な実態把握を行いました。2学期以降、個別の課題や登校状況、希望する進路に応じて個別の指導計画を作成していきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	夜間学級に入学される生徒は県内さまざまな市町から来られ、年齢や国籍、これまでの学習歴等も一人ひとり大きく異なっています。2学期以降、日々の教育活動に加え、担任を中心として、教育相談等を進めながら生徒一人ひとりの学力や、夜間学級への思いや願いを聞き取っていききました。その情報をもとに個別の指導計画については21人全員分作成することができました。今後、作成した指導計画をもとに、個に応じたカリキュラム編成や日々のかかわりに活かしていきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政策	9	教職員の働き方改革を行い、教育の質的向上を図る
施策	1	教職員の働き方改革の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	教職員の働き方改革の推進
内容	各校において業務の見直しを進め、保護者や地域の理解を得ながら、教職員が子どもと向き合う時間の確保を図ります。 また、教育の質を高めるための働き方改革を進めるため、外部講師を招き教職員に対して研修会を実施し、全国の事例を聞きながら現状の課題を共有することで、教職員の意識改革に取り組みます。

3. 数値目標

内容(指標)	教員業務支援員または特別教育支援員の配置人数			
令和5年度	実績	72人		
令和6年度	実績	77人		
令和7年度	数値目標	77人	実績	79人
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	教員業務支援員または特別教育支援員の配置は、現在75名であり、当初予定の時数配置を行うことができています。各校において働き方改革を意識し、それぞれの実態に応じた業務内容を工夫しています。教職員のさらなる意識改革を目指し、研修内容や各校における取組の好事例について、市内の小中学校へ広めていきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	教員業務支援員または特別教育支援員を、79名(見込み)配置することができました。教員のさまざまな業務を支援していただくことにより、業務改善がすすんでいます。さらに効果的な活用をめざし、各校の支援員の好事例を集約し、校長会等で情報共有することができました。今後も、教員業務支援員の活用とともに、教職員の働き方改革への意識をさらに高められるよう取り組んでいきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	2	仲間づくり ～多様性を認め合う～
政 策	9	教職員の働き方改革を行い、教育の質的向上を図る
施 策	2	教師力アップへの取組

2. 具体施策の概要

具体施策	教職員の資質と実践的指導力の向上
内容	「講師は本市の教職員が行う」、「自分のニーズに合った講座を選択する」をコンセプトに、教師力アップセミナーを実施します。講師を務める教職員は、得意分野で力を発揮できるだけでなく、自己の実践を整理・分析する機会をもつことができます。受講する者は身近にある優れた実践にふれ、積極的に授業実践を行うことができます。また、意欲と向上心をもった若手、中堅教職員対象の「湖南省アドバンス研修」を行います。共に研修を受けることで、「授業力の向上」という共通の目標をもつ仲間として研鑽を深め、各自の研修成果を各校へ普及します。

3. 数値目標

内容(指標)	教職員のニーズに合う多様な研修の開催(教師力アップセミナー、アドバンス研修、ICTワーキンググループ)参加人数		
令和5年度	実績	累計 414人	
令和6年度	実績	累計 425人	
令和7年度	数値目標	累計 430人	実績 590人
令和11年度	数値目標	累計 430人	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	小中学校の教職員だけでなく、市内園の先生方の参加も多数ありました。今後も教職員の関心の高い講座の開設に努めるとともに、教職員が講師として活躍する場を設けていきたいと考えています。夏季休暇中に研修を受けることで、普段はなかなか時間をかけて学べない分野にも視野を広げて学ぶ教職員の姿も多くみられました。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	今年度より人権教育の研修も教師力アップセミナーの一環として募集したことにより、参加人数が大きく増えました。同じ研修を毎年受講することで、専門性を高めている受講者や、さまざまな分野の研修を受講する受講者など一人一人の目的は違いますが、それぞれのニーズに合った研修があるからこそできることだと考えます。今後は、研修に参加して自分の実践を見つめ直し、自己の実践をさらに深めていける講座を増やします。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	10	家庭の教育力を高める
施 策	1	家庭の教育力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	家庭教育支援の推進
内容	教育委員会が窓口として対象者を把握し、子どもたちの家庭学習支援に積極的に関わります。家庭教育に関する意識啓発や情報提供をし、学習機会を提供するなど居場所づくりの充実を図ります。 また、保護者支援として家庭教育に関する支援や子どもと地域住民との交流の機会の充実を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	家庭教育支援員の配置校数			
令和5年度	実績	小学校 5校 中学校 2校		
令和6年度	実績	小学校 7校 中学校 2校		
令和7年度	数値目標	小学校 8校 中学校 2校	実績	小学校 8校 中学校 2校
令和11年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	家庭教育支援員の配置校数については、昨年度より1校増え、残すところ小学校1校、中学校2校となっています。今年度も家庭教育支援員の連絡会議を開き、交流を深め、県教育委員会や家庭教育支援アドバイザーの助言のもと取組を深化させてきました。互いの取組に学ぶことでより効果的な支援、訪問型支援の実践が広がっています。 一方で未配置校への働きかけは十分でなかったため、管理職を含んで実施している地域コーディネーター等運営会議で活動の様子を知らせるとともに、指標についての周知を図っています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	家庭教育支援員の交流会を2回実施しました。また、地域コーディネーター等連絡会議のなかでも家庭教育支援についての説明を行いました。校長会や学校運営協議会の理事会の場で、数値目標についても示し、市の考え方についての周知を図りました。その結果、今年度は昨年度より配置校が1校増えましたが、次年度の家庭教育支援員配置希望校は小学校9校、中学校3校となり、取組の広がりが見られました。 今後は、全小中学校への配置を目指すとともに、アウトリーチ型支援の推進に力を入れていきます。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	10	家庭の教育力を高める
施 策	1	家庭の教育力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	家庭教育支援の推進
内容	教育委員会が窓口として対象者を把握し、子どもたちの家庭学習支援に積極的に関わります。家庭教育に関する意識啓発や情報提供をし、学習機会を提供するなど居場所づくりの充実を図ります。 また、保護者支援として家庭教育に関する支援や子どもと地域住民との交流の機会の充実を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	らくらく勉強会の実施回数		
令和5年度	実績	累計 477回	
令和6年度	実績	累計 454回	
令和7年度	数値目標	累計 500回	実績 累計433回(3月末時点)
令和11年度	数値目標	累計 500回	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日時点で、累計184回の実施実績があります。今年度も市内全小中学校で、らくらく勉強会を実施しています。開始時期については、5月:小学校6校、中学校2校となり年度の早い時期から体制を整え、開催をする学校が増えてきています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	今年度も、市内すべての小中学校にて、らくらく勉強会を実施し、学習機会を提供するなど居場所づくりを充実することができました。今年度の実施回数は、3月末現在で、小学校が359回、中学校が74回、参加人数は延べ7,887人です。支援員の確保や運営方法等で苦慮している学校もありますが、次年度も地域の方々のおたたかい支援を受け、児童生徒の家庭学習の習慣化や、放課後の居場所づくりのために、すべての小中学校で取組を実施していきたいと考えています。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

令和7年度 湖南省教育事業評価シート

所管課

学校教育課

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	10	家庭の教育力を高める
施 策	1	家庭の教育力の向上

2. 具体施策の概要

具体施策	ICTリテラシー教育の推進
内容	スマートフォンなど情報機器の正しい使い方が実践できる取組を、子どもたちへの実態調査・保護者への啓発と併せて実施し、「湖南省スマホ使用3ヶ条」の浸透を図ります。 また、PTA・学校・子ども との話し合いを通じて、情報機器の「使用マナーの意識化、使用のルールづくり」をさらに進めます。

3. 数値目標

内容(指標)	保護者を対象としたICTリテラシー講座を開催した校数			
令和5年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和6年度	実績	全小学校 9校 全中学校 4校		
令和7年度	数値目標	全小学校 9校 全中学校 4校	実績	全小学校 9校 全中学校 4校
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日時点で13校実施済。 スマートフォンなどICT機器の正しい使い方が実践できる取組を、保護者への啓発と併せて実施し、「湖南省スマホ使用3ヶ条」のさらなる浸透を図ります。また、児童会や生徒会が中心となったルール作りが実践できないか検討をしています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	全ての小中学校において、保護者、児童生徒向けのICTリテラシー講座を開催することができました。市小中学校生徒指導主任主事会において、「湖南省スマホ使用3ヶ条」の取組を推進し、各校への取組に活用しています。ただ、児童生徒がスマートフォン等を利用してトラブルを起こしたり、巻き込まれたりするケースは増加しています。スマートフォン等のリテラシーとともにマナーやモラルの教育についても今後も継続して行っていくことが不可欠です。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政策	10	家庭の教育力を高める
施策	2	家庭教育を支援する人材育成

2. 具体施策の概要

具体施策	親育ての場の提供
内容	各家庭で、親の自主的な判断に基づき家庭教育が行われるためには、子育てに関する親の不安や悩みを解消する場が必要です。関係機関と連携し、子育てに関する学習機会や情報の提供に努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	家庭教育講座の参加人数		
令和5年度	実績	年間 123人	
令和6年度	実績	年間 112人	
令和7年度	数値目標	年間 110人	実績 157人
令和11年度	数値目標	年間 125人	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	今年度から小学生低学年とその保護者対象の講座を企画し、小学生低学年とその保護者対象を2講座、未就学児とその保護者対象を3講座開催することとしました。 第1回(8月10日開催 絵本の読み聞かせ&クレープ作り)と第2回(8月23日 LEDランタン作り)は小学生低学年とその保護者対象の講座として夏休みに実施し、合計55人(26組)が参加しました。 第3回(10月4日開催 ミュージック・ケア)と第4回(11月2日開催 絵本の読み聞かせ&蒸しパン作り)は未就学児とその保護者対象、第5回(11月9日開催予定 教育資金について学ぼう)は未就学児を持つ保護者対象に実施を予定しています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	第3回(10月4日開催 ミュージック・ケア)と第4回(11月2日開催 絵本の読み聞かせ＆蒸しパン作り)は未就学児とその保護者対象に実施し、合計93人(37組)が参加しました。第5回(11月9日開催 教育資金について学ぼう)は未就学児を持つ保護者対象に実施し、9人(8組)が参加しました。 全5回で合計157人(71組)となり、目標を超える参加人数となりました。全て、土日開催とし、抱っこの赤ちゃんから参加できるミュージック・ケア以外は託児をつけたことにより、参加できる方が広がったと考えます。体験・活動系ではない講座は参加人数が少ない傾向にあるので、来年度は、より子育て世代が求める内容を企画していきます。 参加者からは、「普段は子どもとゆっくり関わる時間がとれないので、こういった機会がありがたい」「家でもまた実践してみたい」といった声をいただき、家庭教育の一助となるような講座が開催できました。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	11	学校・家庭・地域の連携と協力により教育力を高める
施 策	1	地域と共にあゆむ学校づくりの推進

2. 具体施策の概要

具体施策	地域と共にあゆむ学校づくり
内容	学習指導要領に示された「地域に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域との連携・協働を推進します。学校・家庭・地域が一体となって学校運営協議会の円滑な運営や子育ての課題の共有化を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	地域コーディネーターが学校運営協議会委員を兼ねているコミュニティ・スクールの数(市内11の学校運営協議会)			
令和5年度	実績	6協議会		
令和6年度	実績	7協議会		
令和7年度	数値目標	8協議会	実績	7協議会
令和11年度	数値目標	全11協議会		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	本年度4月に多くの協議会で委員の改選がありましたが、地域コーディネーターが委員を兼ねる協議会は増えませんでした。しかし、学校運営協議会の会議には、委員としてでなく「事務局」や「学校関係職員」といった立場で参加している地域コーディネーターも多く、すべての学校の学校運営協議会に地域コーディネーターが関わっている現状です。 次年度は、ほとんどの学校が委員の改選を行わないため、数値目標の達成は難しいと予想されますが、2年後の改選に向けて、数値目標設定の趣旨を周知していく必要があります。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	校長会や学校運営協議会の理事会の場で、数値目標についても示し、市の考え方についての周知を図りました。委員として地域コーディネーターが登録されている学校運営協議会は7つですが、学校運営協議会の会議には地域コーディネーターがさまざまな立場で参加していますし、準備等の事務局的な役割を果たしている地域コーディネーターも多いです。実態としては、すべての学校で地域コーディネーターが学校運営協議会に深く関わっている現状です。 今後は地域と学校のパイプ役としての地域コーディネーターの役割を再確認し、学校運営協議会を核とした地域とともに歩む学校づくりの推進に努めます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	11	学校・家庭・地域の連携と協力により教育力を高める
施 策	1	地域と共にあゆむ学校づくりの推進

2. 具体施策の概要

具体施策	地域と共にあゆむ学校づくり
内容	学習指導要領に示された「地域に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域との連携・協働を推進します。学校・家庭・地域が一体となって学校運営協議会の円滑な運営や子育ての課題の共有化を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	20歳代、30歳代の委員が参画しているコミュニティ・スクールの数			
令和5年度	実績	1協議会		
令和6年度	実績	1協議会		
令和7年度	数値目標	3協議会	実績	3協議会
令和11年度	数値目標	全11協議会		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	本年度4月に多くの協議会で委員の改選があり、20歳代の委員が1名増えました。また、学校運営協議会の委員(理事)ではありませんが、学校運営協議会内の小委員会の委員をしている20歳代の委員がいるため、3協議会で20歳代、30歳代の委員の参画がみられるようになりました。 次年度は、ほとんどの学校が委員の改選を行わないため、数値目標の達成は難しいと予想されますが、2年後の改選に向けて、数値目標設定の趣旨を周知していく必要があります。また、若い世代の委員の活動の様子などを他の学校運営協議会に知らせていくことで、若い世代の参画を促します。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	校長会や学校運営協議会の理事会の場で、数値目標についても示し、市の考え方についての周知を図りました。また、地域コーディネーター等運営会議の場では、青年層の委員の活躍について紹介しました。20歳代、30歳代の委員が参画している学校運営協議会では、自身が学校に通っていたころの地域学校協働活動での経験をもとに発言するなど、児童生徒の立場に立った意見が活動に反映されています。 今後も若い世代の委員の活動の様子などを若い世代の委員がいない学校運営協議会にも知らせていくことで、若い世代の参画を促します。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政策	11	学校・家庭・地域の連携と協力により教育力を高める
施策	2	地域や地元企業との連携促進

2. 具体施策の概要

具体施策	地域や地元企業などの社会貢献活動の推進と教育環境の充実との連携促進
内容	地域や地元企業などによる寄付行為などの学校応援の輪を拡大するとともに、教育環境のさらなる充実と地域や地元企業などの社会貢献活動の推進との好循環を図るため、学校教育きらめきサポーター事業を継続して促進します。

3. 数値目標

内容(指標)	学校教育きらめきサポーター事業認証事業所数			
令和5年度	実績	年間 1事業所		
令和6年度	実績	年間 1事業所		
令和7年度	数値目標	年間 2事業所	実績	2事業所
令和11年度	数値目標	年間 5事業所		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	対象となる実績は1件ありました。引き続き、湖南省の学校教育環境のさらなる充実と企業・事業所や団体の社会貢献活動の推進の好循環を図っていきます。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	今年度は2件(2事業所)を認証しました。事業の趣旨にある「湖南省の学校教育環境のさらなる充実と企業・事業所や団体の社会貢献活動の推進の好循環を図る」ため、今後も継続して実施していきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	12	「学び」を身近に感じ、「学び」を実践できる環境をつくる
施 策	1	多様な学習機会の充実

2. 具体施策の概要

具体施策	地域に密着した学習機会の提供と人材の育成
内容	地域の課題解決や多様化する市民ニーズに応じた学習機会の充実と情報提供に努めるとともに、生涯学習の推進を図るため、地域にある身近な場所で主体的に学習活動が行えるよう、学びの場づくりを支援します。 また、地域の文化や学びの成果をいかして、市民が体系的に学び、力を発揮できる場や仕組みの検討、市民参画の場の充実と社会教育団体の育成支援に努めます。
具体施策	公立図書館の充実
内容	公立図書館がその機能を果たすためには、新鮮で魅力的な資料があること、資料と市民とを結ぶことが大切です。市民のニーズを把握し、公立図書館および移動図書館で、蔵書の充実を図ります。 また、「湖南省読書バリアフリー計画」に基づき、誰もが読書に親しめる環境づくりに努めます。 施設内では、誰もが快適に利用できる環境を整えるとともに、社会の変化に対応したサービスの実施に取り組めます。 また、利用案内チラシやホームページを活用することで、公立図書館を利用していない人へのアプローチも図ります。 公立図書館に来館することが難しい市民に対しては平成30年11月に開設した電子図書館の活用を進めるなどして資料提供を図ります。また、地域資料の保存活用に向けてデジタル・アーカイブ化を進めます。 市民の生涯学習推進の拠点施設として、展示や講座、講演会などの集会行事を実施し、文化情報の発信をめざします。 地域との協働においては、展示・講演などの活動発表の機会の提供に努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	甲西図書館の年間来館者数			
令和5年度	実績	年間 46,067人 (参考:令和5年度貸出人数)来館者数をカウントする機器が無かったため。		
令和6年度	実績	年間 47,912人 (参考:令和6年度甲西図書館貸出人数)来館者数をカウントする機器が無かったため。		
令和7年度	数値目標	年間 46,800人	実績	66,495人(令和7年6月～)
令和11年度	数値目標	年間 50,000人		

4. 進捗状況(9月30日現在)

A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入	6月に来館者カウント機器を設置したことで、貸出人数だけでなく来館者数を把握できるようになりました。6月から9月30日現在の4カ月間の甲西図書館の来館者は27,901人でした。 おはなし会など定例の催しに加え、今年度は児童文学講座や「万葉と新美南吉絵本原画 鈴木靖将展」と関連企画コンサートなど実施し、市内外から多くの方に来館いただいています。また、公立図書館を利用していない人へのアプローチとして、ラインの活用も始めました。
---	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	6月から甲西図書館に来館者カウント機器を設置したことで、貸出人数だけでなく来館者数を把握できるようになりました。6月から令和7年度末の甲西図書館の来館者見込み数は66,495人で、貸出人数の約1.6倍の来館者数となりました。 おはなし会など定例の催しに加え、今年度は児童文学講座や一般向けの講座、展示および展示関連コンサートや講演会など実施し、市内外から多くの方に来館いただいています。また、公立図書館を利用していない人へのアプローチとして、ラインの活用も始めました。今後も図書館を利用していない層へのPRを工夫していきます。			
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった		の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由				

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政策	12	「学び」を身近に感じ、「学び」を実践できる環境をつくる
施策	2	部活動の地域展開

2. 具体施策の概要

具体施策	部活動の地域連携や地域クラブ活動への展開
内容	持続可能性や活動機会の確保の観点から、各校の部活動において、地域のスポーツ・文化芸術団体などとの連携や、近隣学校との合同練習などの交流が柔軟に取り組まれるように支援します。 中学校で行われる部活動について、地域の実情に応じて活動が最適化されるよう、段階的な地域連携や地域クラブ活動への展開ができる環境整備を図ります。

3. 数値目標

内容(指標)	部活動指導員または地域文化スポーツクラブ指導者の配置人数			
令和5年度	実績	8人		
令和6年度	実績	8人		
令和7年度	数値目標	9人	実績	9人
令和11年度	数値目標	12人		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	全中学校にそれぞれ2～3名の部活動指導員を委嘱し、数値目標の計9名を配置することができました。また、部活動を地域展開していくために、地域文化スポーツクラブの設立・運営を進めています。さらに、部活動指導員から地域クラブ指導者への移行や、新たに地域クラブ指導者を確保するなどの取組を進めています。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	今年度においても全中学校それぞれに2～3名ずつ、合計9名の部活動指導員を配置することができました。それにより、教職員の負担軽減や技術指導において一定の効果がありました。来年度以降は、部活動指導員だけでなく、部活動の地域展開に向けた地域文化スポーツクラブ指導者の拡充についても取り組んでいきます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			A
上記がC・Dの場合はその理由			

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	13	青少年の健全育成を図る
施 策	1	青少年の交流と活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	青少年の体験活動の機会の充実と社会参加の促進
内容	各種青少年団体の育成支援と、青少年育成市民会議、学区市民会議をはじめとする青少年に関わる各種団体への支援を通じて、体験活動の機会の充実に努めます。 また、青少年の活動の場が創られるよう地域に働きかけを行い、青少年と地域住民との交流の機会を促進するとともに、青少年が社会や地域に参画する機会の提供に努めます。

3. 数値目標

内容(指標)	「青春祭(あおはるさい)『湖南省青少年育成大会』」参加者数			
令和5年度	実績	275人		
令和6年度	実績	422人		
令和7年度	数値目標	継続	実績	384人
令和11年度	数値目標	300人		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	11月23日の甲西文化ホールでの開催に向け、甲西中学校および石部中学校の生徒で構成する実行委員とともに7月から実行委員会を実施して準備を進めています。 各学区市民会議、小中学校、PTA、コミュニティスクール等に参加を呼びかけ、青春祭(あおはるさい)開催後は、湖南省青少年育成市民会議の広報紙「育み」にて、市内に広く周知・啓発を実施します。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	11月23日に甲西文化ホールで開催し、384人の参加がありました。甲西中学校および石部中学校の生徒10人が実行委員として企画・運営を行いました。オリジナルハンドタオルの作成、地域企業とのコラボ、放課後等デイサービスの活動発表などを行いました。また、実行委員が考えた問題に答える「湖南省をもっと知ろうクイズビンゴ」を実施し、客席が一体となって湖南省について改めて学ぶ機会となりました。 ステージ看板、当日の運営などを主体的に進めていました。チラシおよびプログラムのイラスト、会場玄関の看板は市内中学校、高等学校の部活動に作成していただきました。 青春祭(あおはるさい)開催後は、湖南省青少年育成市民会議の広報紙「育み」を発行し、市内に広く周知・啓発を実施しました。 実行委員会の進め方や大会運営について、今後のよりよい開催にむけて検討をしていきます。	
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		A
上記がC・Dの場合はその理由		

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	13	青少年の健全育成を図る
施 策	2	青少年健全育成活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	関係機関と連携した活動実施と非行など、課題のある少年の対策・居場所づくり
内容	青少年育成市民会議・学区民会議をはじめとして地域住民の協力を得ながら、青少年にふさわしい環境づくりのために、地域で子どもを守り育てる輪の拡大に努めます。 また、関係機関と連携し巡回活動を実施します。非行など課題のある青少年については、生活改善や就学・就労対策を行う一方で、さまざまな問題を抱え、自分の居場所もなく悩み苦しんでいる少年が、自分自身を見つめ直して健やかな成長をしていくために、カウンセリング機会を設けるなどの支援を行います。

3. 数値目標

内容(指標)	無職少年の就労のための企業訪問の実施回数		
令和5年度	実績	年間 19回	
令和6年度	実績	年間 23回	
令和7年度	数値目標	年間 20回	実績 18回
令和11年度	数値目標	年間 20回	

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日現在で12回実施しました。今年度は無職少年が就労を希望するまでに至らないケースが多くあります。ハローワークに同行したり、アルバイト先をインターネット上で検索したりするケースに留まっています。今後は、支援少年と就労前に企業見学をしたり、就労後支援として企業訪問ができるよう支援を継続していきます。
------------	---

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	無職少年の就労支援が少なかったが、地域の支援団体から依頼を受けた少年について面談やハローワークへの同行を複数回実施し、就労につながったケースや、昨年度に就労した少年が一時的に勤務不能になった時に企業担当者や本人と面談を重ね、就労後支援を実施し、現場復帰することができたケースがありました。また、高校退学後、就労意欲のない少年を2年近く支援し、時間を要しましたが、週2回程度のアルバイトにつなぐこともできました。 市内企業のほかにも、少年を受け入れてくださる総合人材サービス「ワークスタッフ」の方が来所され、ニーズがあれば紹介できるマッチング体制を整えることができました。 今後の取り組みとしては、就労後の継続支援や、就労が続かなかったときに速やかに支援を再開できるような体制づくりにも力を入れていきます。			
A:目標以上の取組ができた D:全く取組ができなかった		B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入		B
上記がC・Dの場合はその理由				

1. 評価項目

基本的方向	3	ふるさと意識の醸成 ～地域の人との挨拶から～
政 策	13	青少年の健全育成を図る
施 策	2	青少年健全育成活動の推進

2. 具体施策の概要

具体施策	関係機関と連携した活動実施と非行など、課題のある少年の対策・居場所づくり
内容	青少年育成市民会議・学区民会議をはじめとして地域住民の協力を得ながら、青少年にふさわしい環境づくりのために、地域で子どもを守り育てる輪の拡大に努めます。 また、関係機関と連携し巡回活動を実施します。非行など課題のある青少年については、生活改善や就学・就労対策を行う一方で、さまざまな問題を抱え、自分の居場所もなく悩み苦しんでいる少年が、自分自身を見つめ直して健やかな成長をしていくために、カウンセリング機会を設けるなどの支援を行います。

3. 数値目標

内容(指標)	課題のある少年や家族との専任カウンセラーによるカウンセリング回数			
令和5年度	実績	年間 40回		
令和6年度	実績	年間 46回		
令和7年度	数値目標	年間 45回	実績	31回
令和11年度	数値目標	継続		

4. 進捗状況(9月30日現在)

実施内容(進捗実績)	9月30日現在で17回カウンセリングを行いました。今年度は、集団生活への不安を抱える学生やその家族からの相談が多く、対応しています。今後は、少年や家族の様子を聞き取り、専門的なカウンセリングにより、自覚的な生活改善や立ち直りへの支援を行っていきます。
------------	--

5. 所管課評価(最終)

実施内容(最終実績)	カウンセラーの活用状況は、少年・保護者をあわせて31回です。また、支援のための情報共有の場として、年間6回のブロック会議を開催しています。昨年度よりカウンセリング回数は減少していますが、定期カウンセリングを受けていた少年1名と保護者1名が安定した生活を送ることができるようになり、カウンセリングの頻度を減らすことが可能となりました。これは課題を抱えた少年たちが改善された姿であり、取り組み目標であります。 今後は、そのような少年の支援を完全に終了させるのではなく、困ったときにいつでも頼れる存在としてあり続けます。		
A:目標以上の取組ができた B:目標通りの取組ができた C:目標までの取組ができなかった D:全く取組ができなかった の中から選んで右枠へ記入			B
上記がC・Dの場合はその理由			